令和元年東日本台風の根川雨水幹線流域における再度災害防止に向けた取組と根川公園に関する説明会

令和７年５月９日開催分

日　時：令和７年５月９日（金）　18時30分から20時00分まで
場　所：狛江市立和泉小学校体育館
出席者：調布市
　　総務部危機管理担当部長（兼）危機管理監、
　　総務部副参事（兼）総合防災安全課長、総合防災安全課防災対策担当課長、
　　都市整備部まちづくり推進課地区まちづくり担当課長兼都市計画担当課長、
　　環境部長、環境部次長、下水道課長、下水道課主幹（兼）課長補佐
　狛江市
　　総務部長、総務部危機管理監、安心安全課長、
　　都市建設部まちづくり推進課長、
　　環境部長、環境政策課長、下水道課長
　東京都都市づくり公社下水道部設計課長
司　会：調布市下水道課主幹（兼）課長補佐

（司会）
　皆さま、本日はお忙しい中、説明会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、只今より調布市及び狛江市の両市合同による「令和元年東日本台風の根川雨水幹線流域における再度災害防止に向けた取組と根川公園に関する説明会」を開会いたします。
　本日は、次第の裏面に記載しております部署の職員が出席しております。なお、会場前方のスクリーンをご覧いただきやすくなるよう、職員は皆様の座席の横に座っております。申し遅れましたが、私は本日の司会進行を務める調布市環境部下水道課の中川と申します。よろしくお願いいたします。
　開会にあたり、狛江市環境部長の一瀬及び調布市環境部長の窪田よりご挨拶申し上げます。
（狛江市環境部長）
　皆さま、こんばんは。狛江市環境部長の一瀬でございます。
　本日は、令和元年東日本台風の根川雨水幹線流域における再度災害防止に向けた取組と根川公園に関する説明会にご出席頂き誠にありがとうございます。
　令和元年10月の令和元年東日本台風では、調布市、狛江市の両市において甚大な浸水被害がございました。両市では、これまで様々な浸水対策を実施してまいりましたが、この度、令和４年７月の説明会で説明させて頂いたポンプ施設について、基本設計が完了したため、本日、皆様にご説明する機会を設けさせていただきました。

ポンプ施設の設置は、再度災害防止に向けた要となる施設でございます。今後も両市が一丸となり本事業を進めてまいりますが、皆様のご理解とご協力が不可欠であると考えてございます。本日は、限られた時間ではございますが、この後、説明をさせて頂きますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（調布市環境部長）

皆さん、こんばんは。調布市環境部長の窪田でございます。

本日は、お忙しい中，説明会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

令和４年７月に開催した前回の説明会において、中長期的な浸水対策および浸水被害軽減に向けた取組状況について、御説明いたしました。

その後、お時間を頂くことになりましたが、本日は、これまで狛江市と調布市が連携して、検討を続けておりました「大型ポンプ施設」の基本設計に関し、整備する施設の概要と今後のスケジュールなど、具体的なお話ができればと思っております。

令和元年東日本台風の再度災害防止に向け、引き続き精一杯、取り組んで参りますので、みなさまの御理解を頂きたく存じます。

本日は、よろしくお願いいたします。

（司会）

続いて、本日の説明会の流れをご説明します。

「次第」をご覧ください。

はじめに、資料の内容について、おおむね 30 分程度ご説明します。

その後、質疑応答を 45 分程度予定しております。

説明会の終了予定は、午後８時までとなっております。

限られた時間の中でございますので、円滑な進行にご協力のほどお願いいたします。

次に、説明に入る前に皆様に幾つかお願いがございます。

本説明会は記録や広報等のため、録音と写真撮影をさせていただきます。お顔が写らないよう、皆さまの後方から撮影いたします。

なお、個人による会場内での写真撮影・録音・録画については、ご遠慮願います。

次に、携帯電話・スマートフォン等の音の鳴る機器は、電源を切るかマナーモードに設定をお願いいたします。

次に、本説明会の議事の要旨は、準備ができ次第記載しております調布市及び狛江市のホームページで公開いたします。

緊急対応についてですが、この体育館は耐震化施設となっておりますので、あわてて飛び出さず、係員の指示に従って、入ってきたところから順番に避難してください。

最後に、お手洗いは会場出入口の横、または会場を出て、左手に進んでいただくとプール脇にございます。

では、Ａ４横・ホッチキス留めの資料によりご説明します。

前方のスクリーンにも映しますので、適宜ご覧になってください。

それでは、説明を始めてください。

（狛江市下水道課主査）

狛江市環境部下水道課の梅川と申します。

着座にて説明させていただきます。

資料をご覧ください、右下にスライドごとのページ番号を振っております。説明する際には、ページ番号を申し上げますので、ご参照願います。

１ページをお願いします。

（スライド１）

本日の次第です。

はじめに、「１.再度災害防止に向けた浸水対策の検討状況」として、令和４年の市民説明会以降行った基本設計の検討内容についてご説明します。なお、再度災害防止とは、過去の災害時と同様の降雨により、再び同規模の被害が生じることを防止することを指します。「２.質疑応答」の時間を設けます。「３.その他」として、事務的な連絡事項を載せています。

１ページ飛びまして、３ページをお願いします。

（スライド３）

六郷排水樋管の流域を調布市と狛江市、両市に跨った流域として主要な幹線と共に模式的に説明しています。

黒の実線で囲った範囲に降った雨水が幹線に集まり、調布市の羽毛下幹線から狛江市の根川雨水幹線、また根川第２雨水幹線、根川第１雨水幹線を通って最終的に六郷排水樋管から多摩川に放流されます。

４ページをお願いします。

（スライド４）

こちらでは、令和元年東日本台風の浸水被害の状況をシミュレーションによってコンピューター上で再現し、被災当時の最大水深が分かるような図と被災当日の写真で説明しています。左側の図の水色から紫色で着色した所が当時の浸水範囲で、最大浸水深は1.5ｍを超えています。

５ページをお願いします。

（スライド５）

こちらでは、排水樋管の最適操作を行い、既に設置している逆流防止ゲート、国土交通省が行っている多摩川の河道掘削が完了した時点での令和元年東日本台風と同様の降雨があった場合のシミュレーションとなります。浸水軽減が図られていますが、本日説明するポンプ施設の設置により、令和元年東日本台風と同規模の台風が来ても、浸水が生じないよう再度災害防止に取り組みます。

６ページをお願いします。

（スライド６）

基本設計で検討したポンプ施設の計画概要です。ポンプ配置の機能性等を検

討し、配置案を確定させました。根川公園に建築する建屋内に配置する定置式ポンプ×３台、既設の逆流防止ゲートと共に逆流防止のために新たに設置する逆流防止ゲート、根川第２雨水幹線から根川雨水幹線へ導水するための連絡管という形で浸水を防ぎます。

７ページをお願いします。

（スライド７）

左側に平面図、右側に断面図としています。平面図のオレンジ色で囲った部分がポンプ施設で、赤色の斜線が入った部分を含めてポンプ用地となります。右側緑色の部分、青色の部分、上側の緑色の部分が公園として残る部分になります。

右上の図は定置式ポンプの仕組みを説明しています。定置式ポンプは既設水路とは別にポンプを設置するもので、ポンプで排水した水が逆流しないようにするための逆流防止ゲートが既設水路に必要となります。

アニメーションで水の流れを表現しています。根川雨水幹線の水が除塵機でゴミが濾し取られ、定置式ポンプにて押し出された水が吐出水槽を経由し、逆流防止ゲートで囲まれた管路を通って多摩川に排水されていきます。

８ページをお願いします。

（スライド８）

ポンプ施設設置後の雨水排水の流れを模式的に説明しています。

左側の図、平常時は青色の根川第２雨水幹線と緑色の根川第１雨水幹線の水が合流し、既設の逆流防止ゲートを通って赤色の根川雨水幹線と合流し、六郷排水樋管から多摩川へ放流されています。

右側の図はポンプ稼働時です。ポンプ稼働時の水の流れをアニメーションで表現しています。根川第１雨水幹線と根川第２雨水幹線の水は、連絡管を経由して、ポンプの稼働により水位の下がった根川雨水幹線に導水され、既設の逆流防止ゲートと新設の逆流防止ゲートで逆流を防いだ区間にポンプで排水され、多摩川へ放流されます。

これらの水の流れは地表面の高さとは別に下水道管内の水面の高さや水の圧力の影響によって発生するものです。

９ページをお願いします。

（スライド９）

北東から望む鳥瞰図になります。

根川公園は、工事の際には全面を施工ヤードとして使用し、ポンプ施設の工事完了後に公園として一部復元します。

10 ページをお願いします。

（スライド 10）

同様に南西から望む鳥瞰図になります。

ピンク色の点線で囲った部分が水路を蓋掛けする部分です。逆流防止ゲートは手前が既設のもので、ポンプ施設側が新しく設置するものです。逆流防止ゲ

ートはポンプから排出された水が溢れないようにコンクリート構造物で囲っています。矢印は水の流れを示しています。定置式ポンプから排水された水は、赤色の矢印で、吐出し水槽から密閉された管渠内を通って多摩川に排水されます。

11 ページをお願いします。

（スライド 11）

立面図になります。周辺への配慮として、周辺環境と調和するよう周囲の建物に合わせベージュ系の色彩とするつもりです。屋上の 2.0ｍの目隠しルーバーフェンスの上部までで、六郷さくら通りの道路面より９ｍを想定しております。また、建屋の高さ、屋上部のフェンス、建屋の色合い等についていろいろとご意見をいただいておりますので、詳細設計の中で検討してまいります。

12 ページをお願いします。

（スライド 12）

階層別の平面図です。地下部にゴミを取る除塵機とポンプ設備、１階に除塵機から出たゴミを搬出するスペースと、ポンプをメンテナンスするスペース、屋上に配電盤や自家発電機を配置しています。なお、地上部に出る外形としては１階の所でオレンジ色で囲んだ範囲となります。

13 ページをお願いします。

（スライド 13）

断面図になります。建物は１階建てで、高さ 6.7ｍですが、屋上に電気設備を配置し、最大高さは自家発電機の排気口で 12.75ｍを想定しています。

14 ページをお願いします。

（スライド 14）

ここからは下水道施設と根川公園についてです。

都市計画下水道のポンプ施設と都市計画公園根川公園の重複範囲は赤色の部分となります。

都市計画公園根川公園の区域から、ポンプ施設との重複範囲を除きます。

15 ページをお願いします。

（スライド 15）

都市計画公園根川公園の区域及び面積を変更するとともに、都市計画下水道のポンプ施設を新たに追加します。また、都市計画公園を３箇所追加します。

16 ページをお願いします。

（スライド 16）

ここからは視点を低くした透視図となり、北側から望んだものになります。

根川公園は、工事の際には全面を施工ヤードとして使用し、ポンプ施設の工事完了後に公園として一部復元します。これまで公園内にあった樹木を可能な範囲で移植することで、現在の樹林の様相を維持いたしたいと考えています。

17 ページをお願いします。

（スライド 17）

同様に南側から望む透視図になります。

まず、都道である六郷さくら通りに接する部分については、これまでどおり都道と住宅地とつなぐ形状となるほか、現在と同じような緩やかな傾斜地となります。玉翠園の玉石垣については、現在の石垣を解体する際に、可能な限り玉石を保存し、復元した公園で再利用することで、玉石垣の面影を残すようにしたいと考えております。

18 ページをお願いします。

（スライド 18）

ここからは「周辺環境との調和」として日影(ひかげ)を表しています。左側が第１種低層住居専用地域、右側が第１種中高層住居専用地域です。用途地域に対して、建築基準法第 56 条の２（日影（ひかげ）による中高層の建築物の高さの制限）の規制内に収まっています。図の見方としては、用途地域毎に灰色に塗りつぶされていない部分について、１点破線の緑と青の制限範囲内に緑と青の実線が収まっているかで判定します。

19 ページをお願いします。

（スライド 19）

「周辺環境との調和」の騒音です。この施設で最も大きな音が出る機械は非常用発電機ですが、発電機は停電の際に使用する非常用のため、規制対象ではありませんが、周辺で実測した 55 デシベルを下回るような対策を実施します。

20 ページをお願いします。

（スライド 20）

「周辺環境との調和」の景観です。施設の北側から見た現況と施設設置後を比較出来るようにしています。

21 ページをお願いします。

（スライド 21）

事業のスケジュール（案）として、本工事着工までを主に説明しています。

令和７年度は詳細設計を始めると共に、都市計画変更と事業認可変更を行います。また、遺跡の試掘調査を行います。

令和８年度は樹木の移植等を行い遺跡の本調査を行います。また、詳細設計の進捗に合わせ、建築確認等の手続きを行い、本工事を令和８年度中に始めたいと思っています。

既にご意見をいただいている、建屋の高さ、屋上部のフェンス、建屋の色合い等についても、詳細設計の中で検討してまいります。

22 ページをお願いします。

（スライド 22）

工事まで含めた全体的なスケジュールです。基本設計を行い、事業スケジュールの見直しを行いました。

令和 13 年度にポンプ機能の供用を開始し、その後復元工事を行い、公園の復元工事を含めて全体工事としての完成は令和 14 年度と考えています。

なお、表の最下段に前回説明会の工程を記載しています。今回提示する工程との差を表の下に記載しました。「①まず、基本設計において、工事中の流下能力を確保するための検討や、建築物としての日影規制への検討のため、基本設計の時間を要しました。今後の課題として、②浸水対策の早期実現に向け、根川公園を活用するため、都市計画変更手続きが必要となりました。③根川公園を活用するため、遺跡調査が必要となりました。④詳細設計において、建築確認等手続きが必要となりました。」このことによるものです。

また、別冊の参考資料に、浸水被害軽減に向けたこれまでの取組状況について取りまとめておりますので、ご確認ください。

以上が説明となります。

（司会）

続きまして、「質疑応答」に移ります。

質疑応答にあたり、皆さまに幾つかお願いがございます。

ご質問のある方は手を挙げていただき、司会の私から指名をさせていただきます。

係の者がマイクをお持ちいたしますので、マイクがお手元に渡ってからご発言をお願いいたします。

ご発言に際して，「狛江市和泉本町（いずみほんちょう）１丁目の中川です」のように、お差支えがない限り、はじめにお住まいの地域とお名前をおっしゃってください。

質疑応答は、午後 7 時 55 分を目途に終了とさせていただきます。

一人でも多くの方からご質問をお受けするため、発言時間についてご配慮いただきたく、ご質問は短く簡潔に、２問程度までを目安にお願い申しあげます。

それでは、ご質問のある方は挙手をお願いいたします。

（司会）

一番こちらの男性の方、お願いいたします。

（参加者〇〇氏）

質問です。説明していただいた資料の５ページ。

浸水被害の状況と目標レベルということで、浸水被害軽減シミュレーション結果の図面が出ていますが、こちらは令和３年の報告説明会の時に出た図面と変わっていませんが、今の現状としては、シティテラス多摩川ができ上がり、ニ号棟も更地になって新しい建物が建とうとしている状況ですが、これを反映した浸水シミュレーションはされているのでしょうか。それが１点目です。

それと、根川雨水幹線などは蓋がないのですが、先ほど、ポンプ施設の近いところのみに蓋掛けをするという説明でしたが、これをもう少し広い範囲に広げて蓋掛けすることによる、その軽減効果は考えられないんでしょうか。

この２点について説明をお願いいたします。

（司会）

ありがとうございます。

シミュレーションの内容と蓋掛けの内容ということでよろしくお願いします。

（狛江市下水道課長）

狛江市下水道課長の岩﨑と申します。よろしくお願いいたします。

最初に５ページ目のシミュレーションでございますが、こちらの方は確かにかつて、出させていただいた資料になっております。こちらは当時の現況をもとに、シミュレーションを行っております。説明でありましたが、樋管の最適操作、逆流防止ゲート、多摩川の水位が国土交通省の河道掘削が終わった状態ということです。台風当時の浸水につきましては前のページの４ページにありますが、そちらから、今の三つの対策効果によって、これだけ浸水軽減できてますという図になっております。多摩川住宅の建て替えで、現況が変わっているということなんですが、現況を変えたものでシミュレーションは行っておりません。当時の状況でこう変化しますという図になります。

では、蓋掛けについてお答えします。10 ページの鳥瞰図のところにピンク色で書いてあるところが蓋掛けの範囲になっております。こちらにつきましては、ポンプ施設から排水された水が、元の水路に戻っていかないように、既存の逆流防止ゲートと、新設する逆流防止防止ゲートとの間に蓋を掛けて、その中を圧力を持った水が多摩川の方に抜けていくというような形で、機能を発揮するために蓋をかけるような形を考えております。他のところを蓋掛けしないか、ということですが、今回、こちらのポンプ施設を、作ることによりまして、幹線の水位が下がってきますので、他のところを蓋掛けすることによって、浸水対策効果が高まるということがないものと考えております。説明は以上になります。

（司会）

次の方に移りますので、挙手をお願いいたします。真ん中の白いトレーナーの方をお願いします。

（参加者△△氏）

先ほどの岩﨑さんのご回答の確認です。先ほどの５ページのシミュレーションの部分、例えばシティテラスができたとか、先ほどのご質問では、多摩川住宅の再開発による影響があるのか無いのかというところの部分を聞かれていたという認識なのですが、そこについての答えが、結論として影響がこのシミュレーション上シティテラスなどが建ったことによって、例えば浸水深への影響があると考えているのか、ないと考えているのかというのが、先ほどの答えからはわかりにくかったので、そこの説明を明確にしていただきたいのです。当然、シミュレーションをされてないということなので、シミュレーションした結果がわからないという話だと思うのですが、影響があるのかないのか、どちらで考えてるのかというところは、お聞かせいただきたいというのが先ほどのご質問の意図なのかと思ったので、いいですか。

合っているということなので、ご回答いただけないでしょうか。

うちは被災して、63 世帯が全部浸水したので、その立場で、影響があるか無いかというところは結構大事な要素なので教えてください。お願いします。

（狛江市下水道課長）

狛江市下水道課長の岩﨑と申します。先ほどのシミュレーションですが、ページ数でいきますと５ページになります。シミュレーションをやって、現状の宅地の造成等で影響があるのかと申しますと、ないとは言えないかと思っておりますし、浸水した水が、建物ができることによって別のところに逃げていくとか、そういう変動要素はあると思います。浸水に影響があるのかと思っておりますが、ポンプ施設を設置した後につきましては、特に地表面の変動というのは、影響を受けないようになりますので、最終的には影響は無いかと考えております。

（参加者△△氏）

結論とすれば、現状はもしかしたら建築によって浸水への影響が多少あるかもしれないが、今回ご提案いただいてるポンプ施設ができることによって、このエリアの浸水深はゼロになるという認識ですというのが今のお答えという認識ですけど、合ってますか。

（狛江市下水道課長）

はい、その通りでございます。

（参加者△△氏）

安心しました良かったです。

（調布市下水道課長）

調布市下水道課長鈴木と申します。よろしくお願いします。

先ほどのご説明の趣旨で建物が建ったことによる影響はというお話だと思うんですけども、今回、多摩川住宅さんが建て替えられる時に、地下に浸透施設というものをつけてます。なので、今まであったかなかったかというとそこは私の方で定かではないんですが、少なくとも建物を建てるときに、市が求める浸透能力を高めるような施設を追加でつけさせていただいてます。そういう意味でいくと、今まで浸透施設がない箇所については、その分だけ能力が高まるということになりますので、影響があるかないかと言われれば、むしろ緩和する方向で動くというような取り組みを、地元の方にもご協力いただきながら進めているという状況でございます。以上でございます。

（司会）

よろしいでしょうか。

そうしましたら次の方に移りますので、挙手をお願いいたします。

では一番奥のスーツジャケットを着てらっしゃる紺色のジャケットの方、お願いします。

（参加者□□氏）

前職は東京都水道局で 40 年ほど仕事しておりました。関連して、ご質問させていただきます。先ほど質問があったように、今度できる建物付近の、電柱には

浸水深５メートルという表示があります。これですが、この施設ができることによって軽減というかゼロになるということで理解をしたいと思うのですが。建物の高さがフェンスを入れて９メートルになっていると、対策ができていなければ、５メートルですから、２階まで浸水が及ぶということなのです。

質問であります。一つは、これは有人の施設なんでしょうか。それとも無人で稼働できる施設なんでしょうかということが１点です。

それから前職の関係でちょっと質問させてもらうのですが、6 年前の震災時は 3360 件かな、停電したのです。停電つまり電源喪失に対して、今のこの施設だと屋上に自家発電機を設けていると思うのです。私が仕事をしてた浄水場では、やっぱり自家発電機があって、これの稼働については大容量ポンプを回すのだけれども、運用２時間というふうに言われました。僕はもう６年経ってますので、この屋上の自家発電機というのは、電源喪失をした場合にどれぐらいそのポンプを稼働できるのかと、19 号台風のときは、６時 40 分ぐらいから、多摩川住宅周辺に冠水が始まって、23 時過ぎまで水が引かなかったので、こういう状態を考えたときに、どれだけの時間稼働するのかということについて一応ご質問させていただきます。

（司会）

ありがとうございます。

まず施設が有人か無人かで、停電した際の対応というところをお願いいたします。よろしいでしょうか。

（狛江市下水道課長）

狛江市下水道課長の岩﨑と申します。有人無人に関しましては、こちらの施設は無人施設でございます。ただ、大きな多摩川の水位上昇があった場合には、稼働状況を確認するという意味で、職員の方は見るようにしますが、基本的には自動で運転するような形で設計の方を進めていきたいと考えております。

あと２番目の質問でございますが、自家発電機が屋上につきますということで、停電対策の方は進めるように考えてございます。稼働時間につきましては、24 時間稼働できるような形で考えております。それと、最初に電柱に浸水深がというお話があったのですが、参考資料の 28 ページをご覧ください。こちらですが、電柱のところに想定浸水深表示というものがあるのですが、こちら何メートルまで、浸水想定がありますというものを表示しているのですが、こちらに表示してあるのは、想定最大降雨、これ以上は大きい雨が降らないという想定最大の降雨に対して、多摩川が決壊した時の最大の水位を表しているものになりますので、東日本台風よりも大きな災害を想定しております。ですので、この想定最大がゼロというわけではなく、東日本台風の浸水が起こったような台風の場合に、ゼロにするような対策をとるということになります。回答は以上になります。

（司会）

よろしいでしょうか。

では次の方に移りますので挙手をお願いいたします。

先ほどの方ですがもう一度どうぞ。

（参加者○○氏）

再度になってしまうんですが、資料の５ページの方の浸水被害軽減シミュレーションの話ですが、一応先ほど回答いただいたのですが、多摩川住宅のシティテラス、あと今度建つニ号棟の新築の方も、都市計画の方で例えば入口がどうだとか高さ制限がどうだとかそういった話はいろいろしていますが、水に対することを狛江市の方から具体的に調整したという話はあまりないと思っているのです、経緯として。それで、実際にそれらのものが建ったときに、我々その人側としてはシティテラスも、ニ号棟の新築されるのもそうですが、南側の多摩川に近い側が１メートル程度盛土されて、新しく建っています。要するに、浸水対策を自分としてはしているんですが、その結果例えば道路であるとか、その隣接する地域に浸水があるんじゃないかという危惧があると思うのです。それに対しては安心して住み続けられるのかという検証をしていただいた方がいいかなと思うのですが、そこに対する検証を今、シミュレーション上ゼロだから大丈夫って言い切ってしまって大丈夫ですか。それに対して一応言うためにも、何かそこに対しての検証をしていただいた方がいいのかなと思うので、再質問をさせていただきます。

（司会）

ありがとうございます。

一部要望的な形ですけれども、お答えお願いいたします。

（狛江市下水道課長）

狛江市下水道課長の岩﨑と申します。ただいまのご質問ですが、浸水した水がどこに動くかという話なので、そもそも水が上がってこないわけですから、宅盤の変更があったとしても、効果のところは変わらないというふうには考えておりますので、ご安心していただければと考えております。

（参加者○○氏）

自信を持って被害はないと、今確認をいただいたということでよろしいでしょうか。これは責任を持って市としてそういうことを言ったいうことでしょうか。ソシアさんもセボンの方も、うちの方もみんな。そして、多摩川住宅の周辺の住民の方もみな安心していいと、昔の雨だったらそういった被害もないと思っていいと、受け取ってよろしいでしょうか。一応確認です。よろしくお願いします。

（狛江市下水道課長）

狛江市下水道課長の岩﨑と申します。庁内で調整いたしまして、質問回答ということで、持ち帰らせていただきたいです。質問につきましては、後日、ホームページでご回答いたしますので、よろしくお願いいたします。

（司会）

では、次の方に移りますので挙手をお願いいたします。

（参加者△△氏）

今、先ほど言っていただいたことは被災者側からするとすごく大事なことだと思ってます。一応こちらに○○さんもいらっしゃるんですが、被災されました。

今回、対策工事が令和10年以降13年とかまでなっちゃうじゃないですか。そうすると、それまでの間に起こる浸水影響のリスクはやっぱり延びちゃってるので、シティテラスなどができたことによって或いは今度新しくハ号棟とニ号棟と、あともう1個、再開発されることによって、浸水深がどれぐらいの影響になるのかというのは、被災者側からすると、実際にポンプ施設ができたタイミングで、そもそも川から溢れないから大丈夫だよというのは先ほど岩﨑さんがおっしゃった通りだと思うのですが、大事なのはそれまでの間に、仮に同じような災害が起こった時に、浸水深がどれぐらいになるのかというのは、やっぱり正しく理解しておきたいので、これもやはりお願いなんですが、できれば、シティテラスなどができたことによる影響を加味した形での浸水深シミュレーションというのは、ちょっとご提示いただけるとありがたいなというふうに考えてます。すみません。

（司会）

要望ということでよろしいでしょうか。

（参加者△△氏）

はい。

（司会）

では次の方に移ります。挙手をお願いいたします。では、Tシャツの方、どうぞ。

（参加者●●氏）

大体は今の発言と被るのですが、我々が一番心配してるのは、やっぱり台風が明日来たらどうなるのとか、来年来たらどうなるのとか、令和10年には何とかなりそうだなと思ったら、今日また延びましたとか。だからやっぱり。もうすぐ出水期になります。秋に同じような台風が来たらどれぐらい浸水するのか、それが一番知りたいのです。この前の説明会も終わってからメールして、同じお願いをしたいと思います。なのでまず、さっきの方からも要望されましたけど、令和14年にゼロになるから心配するなと言うのではなくて、令和14年まで台風が来る度に、ドキドキしとかないといけない。この前はまだやってませんとか、まさか前と同じ5ページが出ると思いませんでしたけど、もうちょっと我々のことを考えてもらえますか。それで、ホームページでちゃんと公開して欲しいのです、シミュレーション結果は。というのは、自治会を通じていろいろと言われて、いやホームページでしょと言ったのですけど、調布市の自治会の組織率ってご存知ですよね、半分いってないの。ということは、自治会を通すと住民の半分はもう触れる機会がない。それを認識しておいて欲しいのです。だからホームページで、例えば今年の出水期に台風がもし同規模のものが来たらどれぐらいなるのか。今聞いているのは、何でしたっけ、ゲートができたので30センチ下がります、浸水がですね。それで、多摩川の河道掘削は終わったんでしたっけ。一応終わった

ら、多摩川の水位が下がります。多摩川の水位がどれだけ下がるとか、そういうのよりも、我々の住宅の浸水がどれぐらいになるのか、もっと前は1.5メートルですよね。最大、それが30センチは下がるんだなというのは理解してます。ポンプができたらと言いますが、令和14年まで我慢して、首を長くして、待たないといけないのか。よくわからないんですが、5ページにはうちが入ってませんが、六郷水門のあの周りだけでなく、染地3丁目の、うちが住んでるとこまで全部入れたところで、ちゃんとシミュレーションをして、それをちゃんとホームページで公開して欲しいんですけど、これは要望というより、そうだと思ってます。だから、強い強い強い要望です。ぜひ、お願いいたします。

（司会）

ありがとうございました。

要望ということでございましたけれども、ありますでしょうか。

（調布市下水道課長）

調布市の鈴木と申します。令和4年8月のシミュレーションの結果を画面に出してください。画面と私の方の言葉でご説明したいと思うのですが、皆さんまずは資料の5ページをお願いいたします。資料の5ページで示しているのは、これは時期的には令和7年度末、今年度末になると、このくらいのシミュレーション結果になりますという内容になります。5ページの中でいくと、まずはその適切な樋管の操作。それから、国交省が今実施中ですけれども、河道掘削をしています。これが令和7年度末には終わるというふうに言われています。さらにフラップゲートと呼ばれる逆流防止ゲートを、この六郷排水管のそばでつけさせていただきました。これらの中で特に国の河道掘削の影響がすごく大きいのですけれども、この河道掘削まで終わると、大体浸水被害が起きた時の半減ぐらいのイメージまで効果が発現するという内容になります。そのシミュレーションを出したものが5ページに載っている右側の絵になります。これを比較していただくものは1ページ戻っていただいて4ページの浸水深のものと比較していただくと、イメージとしては、紫、赤、オレンジ、黄色等、これは浸水深が深いところで床上浸水のイメージなんですが、その範囲が大分縮まっているというのが見て取れるかと思います。今、画面上は先に、5ページをお願いできますか。こちら前方スクリーンに示している、大変見づらくて恐縮ですが、この資料は調布市、狛江市のホームページにも載っています。令和4年7月の説明会の後に、シミュレーション結果を改めて示して欲しいということでホームページに載せている内容になります。5ページの資料ですが、これは見づらいので言葉でご説明しますと、表がありまして検討段階というのが縦軸にあります。検討段階0、1、2、3と。それから参考ということで、全部で5段階。右側の表の軸というのが、各場所、ポイントの位置になりますが、例えば地点2です。こちらのソシアさんのところの交差点ですが、ソシアさんの南西側の交差点になりますけど、これが地点2というものになります。今、お手元の資料にはありませんので口頭で申し上げますが、浸水対策をしない段階では令和元年の東日本台風が起きたときには、1.56

メートルの浸水深があったということで、シミュレーションを行っております。先ほど私が口頭で最初に申し上げました今回の資料の５ページに示されている部分というのが、段階でいうと、段階の２というものになりますが、ここでの浸水深というのが 0.87 メートルと約半減しているという状況になります。これはまだ国の河道掘削が終わってないので、ここまでできてるかというとまだできていないのですが。今、国は令和７年度中に実施するということで公表してますので、そういう意味で今、国がやってることの想定も含めまして５ページに、大体半減するというイメージでのシミュレーションを出させていただきました。参考までに、先ほど建物が建ったことについての影響ということも質疑の中であったかと思います。多摩川住宅さんが建て替えるにあたって、先ほど申し上げたように、建物を少し嵩上げして、地盤を嵩上げして、まずはご自身で自衛するための建物の高さを少し上げていただいたということと、その敷地、建物だけではなくて、建物の間に空間があると思うのですが、道路ですとか、緑地であるとか、そういうところの面積に対して、雨が調布の場合ですと例えば 60 ミリ降っても、ちゃんと浸透するような量の浸透施設をつけてくださいということを指導して、今その住宅側でその対策をしながら建て替えをしていただいてるという状況です。現状でいくと、もともとあったかなかったかというとそこまでの量はなかったというふうに思ってますので、そういう意味でいくと、浸水が起きたタイミングよりもさらに地元の方にもご協力いただいて、その浸水軽減するための取り組みを今進めてきたという状況でございます。先ほどの資料を５ページに戻っていただくと、今、令和７年度末まで、国の河道掘削が終わるまでは、ここまでの浸水軽減というのは図れないのですが、少なくとも国は徐々に徐々にではありますけれども、掘削を進めている中で、時間が経つにつれてどんどん安全性が高まってると、そういう状況になってます。今回ご説明した、まさに大型ポンプ施設が整備できると、この５ページにあった浸水深、こちらもゼロになるということで今取り組んでる内容ですので、そういうご理解でいただければというふうに思います。以上でございます。

（司会）

では次の方に移りますので挙手をお願いいたします。

真ん中のジャンパーを着た方、よろしくお願いします。

（参加者▲▲氏）

今日、説明会に出させていただいて、来るまではどのようなポンプゲートを作るとか、場所ですとか、そういうものに対していろんな質問が出るのかなと、非常に恐れて来たわけなんですけど、皆さんからここまでご質問を伺う限りは、皆さん、気持ちの上でも、あそこに物ができて、水が少しでも低減できるということにご賛同いただけてるのかなと安心をしたところです。住んでいる者としてのちょっとお願いを聞いていただければと思います。我々は、今から５年半前、台風 19 号、10 月の 10 日ですか、ここで１階はすべて床上浸水でした。今まで私は狛江に住んで 50 年以上なんですが、ここまでの水害にあった、堤防もしっか

りしてまして、或いは電柱に貼ってある５メートルだとか、そういう水も受けることなく、ここに 50 数年、住んでいますけれども、今回初めて 19 号で、１階に住んでたということで、床上浸水を受けたというものなんです。ですから非常にこの水に対してもう狛江市の下水道課、それと調布の下水道課、非常にこれに対して我々にとってはうれしい対応してくださるのですが。何せ今回も、４年も３年も４年も工期が延びてしまったということで、私ももう今年 80 になります。今から６年も７年も先と言われますと、完成をまず見ることはできないだろうな。でも、生きてる限りは、この水を現状では恐れながら生きていかなきゃいけないという、大きいものをしょってます。我々が住んでますマンションには０歳の乳飲み子さんもいらっしゃいます。まだあのマンションも 30 年ですから。あと 30 年以上、皆さんも住まれると思うんですよね。そのうちの３分の１の 10 年をどうやって皆さん住んでいかれるんでしょうか。私も建設業界に 40 数年いましたので、一つの計画から一つのものが完成するまでどのような苦労され、どの様なことを、何回も何回も繰り返しながらやられるかというのは十分承知してます。それを承知の上でお願いをしたいのですが。５年間延びるじゃなくて完成までのこのポンプゲートに対しての力と同等とは言いませんけど、せめて軽減できる。２回目まで来ない何か補完策っていうのをお持ちなんでしょうか。この参考資料を見ますと、今まで令和３年ですか、１分間に 15 立方メートルのポンプ車だとかございますが、我々が被災をしたときと同じように、猪方地区も同じように、このポンプを使わなきゃならないのです。猪方のポンプ施設もまだでき上がっていない。用地は確保されて私も見に行きました。ここに書いてある今までのこの 15 立方メートルプラス、今までの歩道の下のポンプ、これを使っても 20 立方メートル。ましてや工事が始まれば、この毎分 15 立方メートルのポンプをどれだけ活用できるのかなと。そのあたりを十分策を練って同時に進めていただきたいと思います。我々はただ待ってるだけです。浸水深がどうだとかこうだとか、そういうことじゃなくて、同じものがこないように。ただ今は、日本の各地で線状降水帯で何日も雨が降り続き、そのおかげでどんどんどんどん水かさが増えていくという事態があるわけです。皆さんのご協力をいただかないとなかなか前に進まないことかもわかりませんけど、ひとつその辺りを考えていただいて、我々にも応援をお願いしたいと思うのです。よろしくお願いします。すみません長い間。

（司会）

ありがとうございました。

基本的にはご要望ということですけれども、完成までの対策という点でいかがでしょうか。

（狛江市下水道課長）

今、いろいろ質問いただいたところで、これまでやってきたハード対策とあとソフト対策について、取り上げていただいたところです。

被災された皆様のご不安を解消すべく、我々一生懸命やっていきますので、どうぞよろしくお願いしたいと考えております。

（調布市総合防災安全課長）

今の下水道課長のお話に加えて、ソフト対策の面でも取り組んでいるものがございますのでご説明させていただきたいと思っております。まずは浸水を軽減するために多摩川に流れてくる水の量を減らす対策といたしましては、調布市、狛江市も加盟している国が主催している多摩川減災協議会という協議体がございますけれども、その中でも、小河内ダムを事前放流することによって、浸水を少しでも減らす、多摩川に流す水を減らすための対策をしております。これは、治水利用ということで協定を結んでいる状況になりますので、まずはそれをご紹介させていただくのが一つと、その他のソフト対策といたしましては、参考資料の、23 ページをお願いします。スクリーンにもございますけれども、できましたら再度災害防止、浸水ゼロというところに行きたいところですけど、現状ではそこには至ってないというのを説明させていただいた通りですが、少しでも浸水を防止するためにということで、先ほども、一つ一つ進むのが大変だと話がありましたので、左側のところにご紹介してますのが、これが東京消防庁が配備している大型水嚢になります。これは水を利用して土のう 300 個分の容量を 10 分で展開できるというもので、こうしたものを要請していくという体制をとっております。ちなみにこちらにつきましては、５月 17 日に調布市で総合水防訓練をやりますけれども、そこでも展開しますので、ぜひご覧いただきたいと思っております。その他右に示しておりますのは同じく東京消防庁の大型の排水車。こちらについて要請するという体制を整えてますので、様々な機関と連携しながら少しでも浸水を軽減していくということを取り組んでいるところです。以上でございます。

（司会）

では次の方に移ります。挙手をお願いいたします。

２回目になりますけど一番奥のジャケットの方お願いします。

（参加者□□氏）

昨年の出水期８月９月頃だったと思うのですが、２回です、ＮＨＫ、それから民放でも野川と仙川が氾濫しそうだと、早急に避難してくれというような放送がテレビから流れていました。それで今のお話にもあったように、国内のみならず、世界的に気候危機が進行しております。それで、私の記憶だと令和４年に、令和 10 年度にポンプを作るという話を聞きました。その時の第１印象は、６年も先なのかと言う印象を持っていたのです。そういう印象を持っていながら、実は今日、こういう場面では初めて、令和 10 年度ではなく令和 14 年度なんだというようなお話だったと思うのです。このことについて、先ほど申しましたように、本当に気候危機が進行していて、いつ、大きな水害があっても不思議ではない状態になっています。足かけそういう意味では、令和 14 年というふうになると、10 年かかるわけです。その間、果たして本当にその対策が、滞らずにいけるのかと。そういう意味では、〇〇の方からもお話あったように、やれることはすべてやって欲しいという要望です。

それともう一つ質問させてもらいますが、当初４年前に、六郷排水樋管が 20

億、猪方排水樋管が 24 億ないし 27 億というお話があったと思うんですが。狛江から見ると、巨大な工事だと思うのですが、この工事の施工業者の競争入札は行われているのかどうなのかということについて、ご質問したいと思います。

（司会）

１点は要望でございましたけれども、もう１点、競争入札に関してご質問がありましたのでよろしくお願いします。

（狛江市下水道課長）

狛江市下水道課長の岩﨑と申します。発注形態、競争入札することによって、費用低減を図れるという効果が期待できると思います。しかし、今の段階で発注形態をどうするというのは、まだ詰めきれておりません。費用が低減するような形で進めていきたいと考えております。

（司会）

よろしいでしょうか。では次の方に移ります。挙手をお願いいたします。

真ん中の灰色のトレーナーを着てらっしゃるマスクの方、お願いします。

（参加者■■氏）

お願いなのですが、あの辺を散歩して見て歩いていましたら、根川第１雨水幹線のシティテラス多摩川さんの南側のところです。水路の中に木が生えてきておりまして、これから雨がたくさん降った時に、雨水が流れる障害になるんじゃないかと思って心配をしております。ト号棟側は蓋掛けしてあって、見えませんけれども、そういう障害物が今あるのです。当面ポンプの方も先だという話なので、その水路の管理をもう少しこまめに巡回していただいて、障害があるものは取り払っていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。これは要望ですので、よろしくお願いします。

（司会）

樹木等についてパトロール等で収集して欲しいという要望として承りましたのでよろしくお願いします。

次の方に移りますので挙手をお願いいたします。はい、どうぞ。

（参加者○○氏）

この前の令和元年東日本台風の時も防災無線が聞きにくかったということがあります。川沿いなので川崎からも入ってきますし、調布からも入ってきます。もう混線してほとんど聞こえなかったです。多分そういう境目だから、皆さんも防災無線から言われてる情報が全部聞こえなかったということは共通してると思うのです。音質をクリアにするとか、他に伝えるやり方についても、安心に繋がると思うのですが、品質の改善とかやっていくような情報発信について、考えていただけないかという要望です。

（司会）

防災無線等の放送についてのご要望として承りましたのでよろしくお願いいたします。そうしましたら次の方に移りますので挙手をお願いいたします。

トレーナーの方お願いします。

（参加者△△氏）

先ほどの防災無線の話でちょっと余談ですけど、狛江市も調布市も防災のメールがあって、それを見るようにしています。防災無線は聞き取れるように音質をクリアにするのは、雨の中では厳しいと思っています。メールなのかもしくはラインなのかというところを活用したほうがいいのかなと、被災体験からそう思いましたというのが１点です。

ここからが本題なのですが、岩﨑さんと一瀬さんにお願いです。〇〇さんのサポートをもう少し手厚くしていただきたいというのが要望です。どういうものかというと、私達は調布市側なので調布市側だと、鈴木さんたちとかとはいろいろとやりとりをさせていただいていて、例えばさっき言った浸水深で、今の直近で浸水すると大体どれぐらいの水位になるのかという情報はいただけてるのです。これぐらいの水位だったら道路冠水はするけど、床上浸水はなさそうだというところの判断が私たちのところの住民ができているのです。今、〇〇さんと話したところ、あまりそこの部分の情報というのが、連携されていないように見えています。先ほど鈴木さんの方からご説明があった直近の今の対策だと。浸水深はこれぐらいなので、〇〇さんのところの浸水深はこれぐらいになる。今伺ったら、台風 19 号の床上浸水は、大体家の部屋の床から 50 センチぐらいの浸水深だったらしいのです。今の対策を行った結果、例えば 60 センチぐらい水位が下がっているのであれば、床上浸水にはならずに床下浸水になるのではないかなと思ったのです。そういう情報の部分を少し手厚く、私の父親世代ですが、ご高齢者なので、より手厚くお願いします。さっきは悲しいことをおっしゃってましたけど、長生きしていただきたいので、安泰に心安らかに雨の日でも過ごしていただけるように、浸水深はこれぐらいだから、今の対策を取っていれば、床上浸水にはならないので大丈夫ですよというところが、おっしゃるだけじゃなくてそれを少し皆さんが、〇〇さんだけじゃなくて、狛江市の皆様方が、安心できるような、納得できる安心できるというところまで、コミュニケーションを手厚くしていただけると、ありがたいなと思ってます。岩崎さんとか、あと一瀬さんがずっと水害の時も、当時課長さんとしてやりとりさせていただいていたので、多分私たちの気持ちをわかっていただけると思うのですが、そこを少し、手厚くというか、本当にコミュニケーションをとっていただけると、ありがたいなというのが調布市民の被災者としての要望です。そんな感じでいいですか。

（司会）

ありがとうございました。ご意見とか要望ということで受け賜りました。ありがとうございました。では次の方挙手をお願いいたします。

２回目ですけれども、Ｔシャツの方お願いします。

（参加者●●氏）

先ほどのお願いに対して、もうこんな資料が出てるという回答を調布市の方からいただいたのですが、あれは当然知っています。私は前回この場でお願いした後、出してもらった資料です。要は、今現在の状況をクローズアップして一番に

して、ホームページにアップしてくださいというお願いです。流れで見えるのはいいと思うのですが、今現在、もし台風が来たら、うちは何センチなのかを心配してるのです。だからあれだけ見て、何ページ目の今この時期だからとか、もうそういうのは、被災する住民のことを何も考えてないで出してるからこれを見ろと聞こえました。だからちゃんと知りたいことは、今現在、もし同程度の台風がきたら、調布市内にはどれぐらい浸水するの。うちの前の人も心配して、いつまでどきどきしていけばいいの。わざわざあんな小さい図の流れで、80過ぎのおばあちゃんにほらこれ見てとはとても言えないです。誰が見てもわかるようにしてください。

（司会）

これらの件を要望として承ったのでよろしくお願いいたします。

そろそろお時間もなくなってきたので、では、こちらをジャンパーの方よろしくお願います。

（参加者◇◇氏）

皆さん被災された方々の話を聞いて、この施設がいかに重要なものか、必要なものかというのは理解しました。それで、私の家が建物のすぐ裏手にあるパースにも映っているような住宅街の中の一軒に住んでいるのですが、この施設の必要性を十分理解してるので、ちょっとこの施設が完成するにあたって、もうちょっと景観に配慮した、そういう工夫ができないかなというような要望と、あとはどのタイミングで、公園のプランニングとか、あと建物のデザインとかが決定されていくのか。その過程の中で、住民として意見ができるタイミングがあるのかというのを、質問として挙げさせていただきたいです。以上です。

（司会）

ありがとうございます。景観配慮への要望ということと、住民へのスケジューリングの公表のタイミングというご質問がありましたのでよろしくお願いします。

（狛江市下水道課長）

狛江市下水道課長の岩﨑と申します。景観等で外装のところにつきましては、資料の21ページのところですが、詳細設計というのをこれから行う中で、外観ですとか、そのほかの部分は決めていこうと思っております。その中で、色見とか外装をどうするかというのを決定をしていくような形になるのですが、そこのところで、ご要望等がございましたら、挙げていただければ、検討いたしますので、具体的に何かありましたら、今後やりとりをさせていただきたいと思っております。

（調布市下水道課長）

ちょっと補足させていただくと、今回ポンプ施設を作るために、どうしても根川公園を活用しないとなかなか難しいというのが、皆様の前でご説明した内容です。公園については、今の設えがあります。玉翠園の石垣であるとか、あるいは樹木がある程度まとまってあるので、憩いの空間にもなってるとか。これは近隣

の方にとって非常に重要な空間だというふうに思ってます。それをどのように復元していくかということに関しては、少し皆さんと意見交換しようというのを狛江市と話してるところです。ただ、全く案がない状態で、今日の説明会に臨むわけにもいきませんので、そういう意味でいきますと、なるべく高低差がないようになだらかに傾斜になっていて、どちらの道路にも結びついている。そして緑が多くある、かつ、玉翠園の石垣というものがあります。そういったものに配慮すると、まずは初歩段階として、そういうものをなるべく元に戻すということを第一の案としてご提示したというのが本日の場面と思っております。今後、これどう設えていくかというのは、まさに近隣にお住まいの方に非常に重要に関わってくる内容でもありますので、その辺はぜひ意見交換したいという意向で今日に臨んでますから、今日の協議に限らず、ぜひそういう場を持たせていただきたいというのが、私どもの趣旨でありますので、そうご理解いただければと思います。

（司会）

よろしいでしょうか。

ちょうど時間になりましたので申し訳ございません。

それでは質疑応答をこれで終了とさせていただきます。

本日の説明会にてお伺いできなかったご意見・ご要望等がございましたら、5月20日（火）までに、説明会資料最終ページに記載している郵送、メール、ＦＡＸまたは添付のＱＲコードからＬｏＧｏフォームでお送りくださいますようお願いします。

以上をもちまして、本日の説明会を閉会いたします。

本日はご来場並びに貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。

この説明会の議事の要旨につきましては、準備ができ次第、狛江市及び調布市及び狛江市のホームページで公開いたします。

なお、職員が片付けでしばらく残っておりますので、何かありましたら、お声がけいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

それでは、傘等のお忘れ物にご注意いただき、お気をつけてお帰りください。どうもありがとうございました。